今さら人に聞きにくい…現在は何社会？

産業保健相談員
谷　直道

先日、学生時代の友人と電話で話している際に、今後の日本の進むべき道は！という崇高な話を聞かされることになってしまいました。彼の話がヒートアップし日本の高齢化の話題に移った折に、高齢社会、高齢化、超高齢化というフレーズが何度か出てきました。彼があまりに熱心に話をするもので、結局その違いについて聞きそびれてしまいました。テレビやインターネットなどのメディアでも高齢化が叫ばれて久しい上、今さら人に聞きにくいこともあり少し調べてみることにしました。

このコラムをお読みの皆様は「高齢社会」、「高齢化社会」、「超高齢社会」の違いをご存知でしょうか？これらの違いについて、誤解を恐れず端的に言ってしまえば、総人口に占める65歳以上の割合（高齢化率）の違いであるといえます。世界保健機構（WHO）は、高齢化率が7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会、21%を超えると超高齢社会と定義しているようです。それでは、現在の我が国は上記の3つのうち何社会だと思いますか？内閣府が公表している令和2年版の高齢社会白書によると令和元年（2019年）の高齢化率は28.4%に到達しており、超高齢社会の真っただ中であるといえます。ちなみに、日本が高齢化社会となったのは、1970年、高齢社会となったのは1994年、そして2007年には既に超高齢社会に突入していました。なお、同白書では令和18年（2036年）には高齢化率が33.3%と3人に1人が65歳以上になると予測されているようです。

やっとすっきりした、と喜んだのも束の間、”高齢”に”少子化”が加わった少子高齢化社会や少子高齢社会、超少子高齢社会といった単語もあるようです…。
今さらながら人に聞きにくいので、もう少し調べてみたいと思います。